



第18回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム  
京都大学新潟講演会

## 京都からの挑戦

—地球社会の調和ある共存に向けて



# 創造への多様性

カッティングエッジ

— 京大の多彩な最先端

報告書

日時

2023年  
3月4日(土) 10:00~17:00

場所

新潟県民会館 大ホール

主催: 京都大学、京都大学研究連携基盤 後援: 新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、読売新聞社



---

第 18 回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム  
京都からの挑戦——地球社会の調和ある共存に向けて

創造への多様性—京大の多彩な最先端 カッティングエッジ

---

報告書

## まえがき

京都大学研究連携基盤主催の第18回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの挑戦 ―地球社会の調和ある共存に向けて」を、令和5年3月4日(土)、新潟県新潟市の新潟県民会館大ホールにてオンライン配信を伴うハイブリッド開催で行いました。

本シンポジウムは、京都大学附置研究所と研究センターで展開されている独創的な研究を全国の皆様に紹介するために、日本各地の中核都市で実施してきました。今回は新潟市で、京都大学の強みの一つである多様性に焦点を当て、「創造への多様性―京大の多彩な最先端(カッティングエッジ)」をサブテーマとして開催しました。本報告書は、その記録をまとめたものです。

シンポジウムは、時任宣博京都大学理事・副学長の挨拶で始まり、午前中、遠藤寿准教授(化学研究所)の「海の生態系を支える植物プランクトンの世界」、三谷曜子教授(野生動物研究センター)の「ヒトはラッコやオットセイとあたらしい関係を築けるか」、酒井朋子准教授(人文科学研究所)の「『きれい』と『きれいじゃない』の人類学」、午後からは、奥田綾助教(複合原子力科学研究所)の「タンパク質の揺らぎが織りなす生命現象」、齊藤博英教授(iPS細胞研究所)の「RNAとiPS細胞が拓く未来の生命科学と医学」、亀井謙一郎客員准教授(高等研究院 物質-細胞統合システム拠点:ニューヨーク大学アブダビ校准教授)の「多彩な科学を融合して、生物多様性を理解する」と題する各講義を行いました。タンパク質、細胞から海洋生態系、人間の精神的内面に至る多様な切り口で、生命の本質に迫るユニークな研究が紹介され、質問・回答コーナーでは、参加者から寄せられた多く質問に講演者が丁寧に回答をしました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは「多様であること―持続的発展ある未来に向けて」をテーマに、湊長博京都大学総長、時任理事・副学長ならびに講演者6名をパネリストとして、辻井敬亘研究連携基盤長の司会により、活発な討論を行いました。最後に、湊総長より、生物進化における多様性の意義を説明するとともに、多様性というのは一人一人の独創性を尊重するというものであり、その中から本当に新しいものが産み出されるということを伝え、締めくくりました。

当日は、新潟県を中心に134名の会場参加、および全国から382名のオンライン参加をいただきました。10代の方からのアンケートには、「様々な視点から多様性について理解を深めることができ、とても面白かったです。」「テーマ一つに対し、文理問わず様々な人の話、切り口が見えて面白かった。」「様々な学問領域が関わり合うことで生まれる発想や技術の面白さが知れてよかったです。」などといった大変嬉しい感想をいただきました。

最後になりましたが、今回のシンポジウム開催に当たり積極的なご支援をいただきました地元新潟県、新潟市の関係者の皆様、長年にわたり本シンポジウムにご支援をいただいております読売新聞社様に心より御礼申し上げます。本シンポジウムは今後も皆様とともに継続、発展を目指す所存です。引き続き、皆様のご参加とご高配を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

令和5年9月

第18回京都大学附置研究所・センターシンポジウム

企画担当 青山卓史(化学研究所長)

# 目次

## まえがき

開会挨拶	時任 宣博（京都大学理事・副学長）	1
講演 1	海の生態系を支える植物プランクトンの世界 遠藤 寿（化学研究所 准教授）	3
講演 2	ヒトはラッコやオットセイとあたらしい関係を築けるか 三谷 曜子（野生動物研究センター 教授）	15
講演 3	「きれい」と「きれいじゃない」の人類学 酒井 朋子（人文科学研究所 准教授）	27
質問回答（前半）		37
講演 4	タンパク質の揺らぎが織りなす生命現象 奥田 綾（複合原子力科学研究所 助教）	43
講演 5	RNA と iPS 細胞が拓く未来の生命科学と医学 齊藤 博英（iPS 細胞研究所 教授）	55
講演 6	多彩な科学を融合して、生物多様性を理解する 亀井 謙一郎（高等研究院 物質－細胞統合システム拠点 客員准教授）	69
質問回答（後半）		81
パネルディスカッション		
「多様であること-持続的発展ある未来に向けて」		87
	パネリスト：湊 長博（京都大学総長） 時任 宣博（京都大学理事・副学長） 講演者 6 名 司 会：辻井 敬亘（京都大学研究連携基盤長）	
総括・挨拶	湊 長博（京都大学総長）	105
[資料] 案内チラシ		
	令和 5 年 3 月 30 日付け 読売新聞記事	
	アンケート	

第18回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム  
京都からの挑戦—地球社会の調和ある共存に向けて

創造への多様性—京大の多彩な最先端<sup>カッティングエッジ</sup>

—報告書—

発行日 令和5年9月  
編集・発行 京都大学研究連携基盤基盤企画室  
住所 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53  
TEL 075-366-7113

※ 本報告書は、講演等の内容を正確にお伝えできるよう、当日の筆録に一部修正・加筆を行っています。



京都大学研究連携基盤

Kyoto University Research Coordination Alliance

化学研究所

人文科学研究所

医生物学研究所

エネルギー理工学研究所

生存圏研究所

防災研究所

基礎物理学研究所

経済研究所

数理解析研究所

複合原子力科学研究所

東南アジア地域研究研究所

iPS細胞研究所

学術情報メディアセンター

生態学研究センター

野生動物研究センター

フィールド科学教育研究センター

ヒト行動進化研究センター

高等研究院 物質—細胞統合システム拠点